

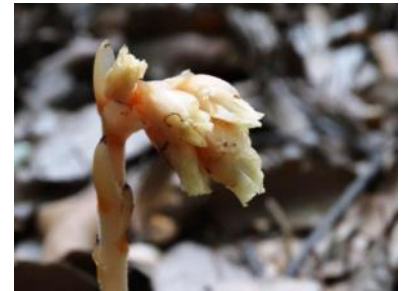
活動の記録

8月5日(月) 晴 クロムヨウラン調査などの臨時活動、

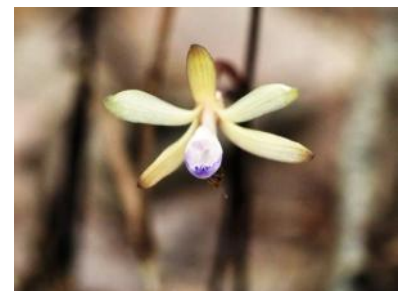
参加4人：新井通子、栗山、真鍋、ミ

クロムヨウランは開花前の蕾で巨木林調査区に約200株、千年広場脇にも10数株のほか、新たにホテイ岬植生保護柵内などにも群落が見つかり、豊英島は広範囲にクロムヨウランが自生していることが確認されました。一昨年賑わったシイ・カシ林斜面のシャクジョウソウは今年も見当たりませんが、平坦部に2か所シャクジョウソウの群落が見つかりました。いずれもクリーム色です。キノコが種類・量とも少なく2週後のキノコ観察会が心配です。ジャコウアゲハ♀が飛んでいました。

なおミ会員は県森林課の承認を得て、東大奈良研究室の奈良先生、研究生の皆さんと8月8-9日入林、クロムヨウランの調査、試料の採取・回収など行いました。この日クロムヨウランは開花、シャクジョウソウは株が干からびて衰弱し、株数も減っていたとのことです。(真鍋)



シャクジョウソウ 8/5 栗山



クロムヨウラン 8/9 東京大 奈良先生

8月19日(月) 晴 「夏のキノコ観察会」

新井夫妻、新井通子、石松夫妻、伊藤、久我夫妻+お孫さん、栗山、小又、坂本文雄、福島、降幡、真鍋、ミ、宮林、村野、森、山口の会員+家族23名に、吹春講師をはじめ、千葉菌類談話会、栃木県きのこ同好会、千葉県自然観察指導員協議会、千葉大学関係者など千葉県各地、栃木・埼玉・神奈川県各地から大勢の参加があり、総勢53名の大盛況でした。暑さに負けず、安全に活動できるよう、観察開始に先立ち全員広場でラジオ体操。この夏の干ばつのせいで、キノコは種類・量ともに極端に少なく、参加の皆さまを失望させる状況でしたが、それなりの発見もあり、吹春講師のわかりやすい解説、食と毒、腐生菌と菌根菌、植物との共生関係、森とキノコの関わりなど、興味深いお話に皆さん熱心に聴き入る姿が目立ちました。またクロムヨウランと菌類の共生関係のお話、野鳥観察、昆虫観察などもあり、楽しい一日でした。(真鍋)



53人参加は千年の森史上の新記録

〇フィールド観察

吹春先生解説のフィールド観察は、コナラ林からホテイ岬コース、経路順に、解説内容を記します。(宮林)

■シャクジョウソウ；キシメジ属などの菌類と菌根を作って共生している。(観察会ではベニタケ属と申し上げましたが、文献をみるとキシメジ属のようです。

■キイロイグチ；カサと柄が鮮やかな黄色の粉状の物質で被われているのが特徴。カサの裏には網状の管孔がある。肉はナイフで切ると青く変色する。食べない。

■キアミアシグチ；キイロイグチに似ているが、柄に網目模様があり区別できる。肉は切っても色は変わらない。食べない。

■キクバナイグチ；カサは菊の花状に鱗片で被われている。肉は切ると淡い黄色から青色に変わる。立ち木の根際など地面から離れて発生することも多いため“キノボルイグチ”になることもある。食べられる。

■ニセショウロ属；ショウロ属の基本体(胞子をつくる組織)は白っぽい、ニセショウロ属の肉は黒っぽい。ショウロ属は「白あん」、ニセショウロ属は「黒あん」と覚えておくと忘れないようです。イグチの仲間。毒。

■ツヤウチワタケ；上面に毛がなく光沢がある。管孔面は白い。材上に生え、この材はコナラ。コナラは枯死しているが、ツヤウチワタケが食い荒らし死に追い詰めたものではない。菌類は決して生木を食物物にはしていない。もし、食物物にしているとすれば森は生きていけない。食べない。

■カブラテングタケ；これは、豊英島ならでのたいへん珍しいきのこ。有名な菌類学者（C.Bas 博士）と植物学者（E.J.H.コーナー博士）によってマレーシアで発見・新種記載されたのがはじまり。千葉県 naturally と沖縄や東南アジアの自然がつながっている証拠のきのこ。柄の根元がカブラ状にふくらんでいるのが特徴。ツバはあるが、ツボはない。（胃腸系の中毒をおこす毒きのこ。『日本の毒きのこ』による。

■クロムヨウラン；ベニタケ属の菌類とラン型の菌根を作って共生というより、むしろ寄生している。

■シハイタケ；木材腐朽菌。上面は灰白色。下面は紫色で管孔がある。食べない。

■ネンドタケモドキ；落下した枯れ枝に棲息しているのを見つける。表面は茶褐色。食べない。



「キイロイグチはカサの裏に・・・」と解説に熱



キクバナイグチ 8/19 宮林



カブラテングタケ 8/19 宮林

あのように乾燥した状態で、千葉大の人たちは図鑑の中に出ているよりずっと立派なツチダンゴ類に寄生したタンポタケモドキを見つけていました。採集中に森の中ですれ違ったのですが、ザッと見て「無い」と判断してしまう我々とは違い、目星をつけた木の周りを丹念に探していました。熱心な人たちだな～と感心しましたが、やはり集中力の差ですね。また機会があれば一緒に歩いて、きのこを探したい。（村野）

○吹春講師のお話

「顕微鏡を使わない、やわらかいきのこのわけかた」の資料に沿って、今日採取されたきのこについてお話いただいた。

■ベニタケ科のきのこは、胞子が白い。また、細胞が丸いためきのこはもろく、ハツタケのように食べたときの歯ごたえがないのが特徴。今回名前がはっきりしたものは、ウコンハツのみで、あとはベニタケの仲間。ブナ科のカシの森で多様性が高い。

■テングタケ科は、ツボやパーツがしっかりしていて形で見分けやすい。今回は、千葉県の照葉樹林をよくあらわすもの

として、カブラテングタケが採取された。ほかに、コシロオニタケ、ツルタケ、オオツルタケ、コテングタケモドキが見られた。ツルタケは、最近では食べない方がよいということになっている。

■ウラベニガサ科では、ウラベニガサが採取された。ウラベニガサの特徴は、ヒダがピンク色。小さいきのこで胞子は丸く、材の上に出る。



きのこの話に聴き入り、メモを取る人も

■チャヒラタケ科では、チャヒラタケの仲間が採取された。この仲間は孢子に色がある。

■イグチ科は、傘の裏が網目状になるのが特徴。食用となるものが多い。似たものでキイロイグチとキアミアシイグチが採取された。キイロイグチは、表面が粉っぽく傷をつけると青変する。今回は、乾燥しているためかあまり青変が見られなかった。キアミアシイグチは、柄に網目の模様がある。イグチの仲間はほとんどが外生菌根菌であるが、腐朽菌ではザイモクイグチがある。食用で有名なのは、ムラサキヤマドリタケ、アカヤマドリ、ヤマドリタケモドキの3つ。ドクヤマドリは標高が高いところのもので、千葉には多分出ない。最近見つかった猛毒菌で、ミカワクロアミアシイグチがある。

今の図鑑には腹菌類という区分はなくなったが、この仲間ではニセショウロやノウタケが採取された。ニセショウロは孢子が黒であるのに対し、ショウロは黄土色をしている。

今日採取された珍しいものとしては、ツチダンゴに寄生する子嚢菌のタンポタケモドキがあった。(福島)

○採取きのこの目録 採取きのこの目録を別表の通り添付します。(村野)

○クロムヨウランのお話

昨年夏のキノコ観察会の日に入会、クロムヨウランと菌類の関係を研究中の、東京大学大学院自然環境学専攻ミ・ルイン会員が、1年間の研究成果をペーパーにまとめて発表。豊英島ではコナラやアラカシの多い落葉樹林を中心に150個体ほど自生しているクロムヨウランは、他のラン同様、種子が非常に小さいため発芽には菌の助けが必要なこと、菌従属栄養ランの一種で葉緑体が無く生涯に亘ってキノコ、キノコと繋がっている有機体と地下のネットワークをつくって栄養分をもらうこ



クロムヨウランときのこの共生関係の話を興味深く

と等お話があり、昨年夏豊英島で採取したクロムヨウランの試料をDNAシーケンスの結果、検出・同定された2種のベニタケ属きのこが披露されました。参加者は熱心に話に聴き入り、チチタケ属菌が同定されなかった理由などかなり専門的な質疑もあり、来年の発表に期待する声援もありました。(真鍋)

○植物観察

クロムヨウランは花のピークを過ぎていて、皆さんが観察始めた11時過ぎには殆ど閉じていました。2週間前、沢山あったシャクジョウソウは干からびて2株に減り、マツグミは花を付けず、夏の観察会は植物にも恵まれない観察会でした。ミヤマウズラが1株開花、豊英島で初めて花を見ました。(真鍋)



ミヤマウズラ 8/19 坂本(文)

ホテイ岬にニホンジカ

○野鳥記録

セミの声にかき消されたのか野鳥の声が殆ど聞こえず、記録は低調でした。50人以上の人が島に入ったので、飛び去った可能性があります。センサーカメラにそれらしい鳥影が写っていましたが、種類の特定は出来ませんでした。記録したのは トビ2+声 ハシブトガラス声 ヒヨドリ声 キジバト囀り オシドリ1 アオサギ1 カワウ5 セグロセキレイ1 以上8種(メモの順) (坂本文雄)



ホテイチク林に設置のセンサーカメラに7月17日2頭同時に写っていました。どちらも鹿の子模様のある若い個体です。(坂本文雄)

○昆虫観察

キノコを並べたブルーシートに、何度もヤブヤンマがやって来た。水面と間違っているのだろうか？目がブルーで美しい！大物のトンボを狙い子どもたちが頑張って網を振るが素早く逃げ去った。ナツアカネは半分赤くなってきた。アキアカネのメスが1頭いた。アキアカネは夏は高山で過ごす、低地で過ごすのもいるようだ。



ヤブヤンマ♀ 8/19 市原市 高橋陸弘氏 ナツアカネ♂ 8/19 船橋市 田島正子さん アキアカネ♀ 8/19 船橋市 田島正子さん
 (他に観察された昆虫) ナガサキアゲハ、キタキチョウ、ムラサキシジミ、コジャノメ、ハミスジエダシャク、マイマイガ(卵のう)、ノシメトンボ、コバネヒシバツタ、ツツシサセコオロギ(幼虫)、カブトムシ、カナブン、ヤマトタマムシ、クチキムシ、キマワリ、ミンミンゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ、ニイニイゼミ、アオバハゴロモ、ヒメスズメバチ、ルリジガバチ、ミカドジガバチ、ミカドトックリバチ、キオビツチバチ、ムネアカオオアリ、サキグロムシヒキ、スキバツリアブ、ベッコウガガンボ、トゲツヤシアブ、トビナナフシ、モリチャバネゴキブリ(成虫、幼虫) (船橋市 田島正子さん)

きのこ観察会～キクバナイグチ、タンポタケモドキ、クロムヨウラン・・・

(加藤恵美子さんのブログ「千葉県の自然見～つけ」8月20日記事より抜粋)

昨日は豊英島できのこ観察会でした。ここは通常は島に渡る橋に鍵がかかっており、
 会員以外は立入り出来ないの、年に数回の観察会は楽しみです♪

千年の森をつくる会の会員さんや千葉菌類談話会のメンバーがたくさん集まりました。
 でも・・・ここ2週間ほど、雨が全く降っていないのできのこがあるのかどうかちょっと心配。

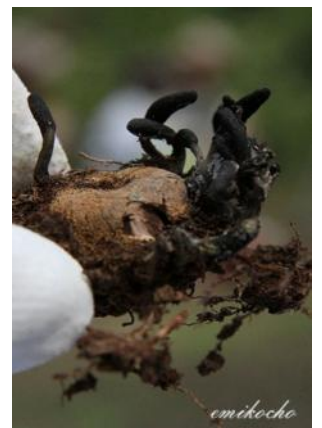
結果は御覧の通り！

大きなカブラテングタケを手に、講師の吹春先生も嬉しそうです。



写真左) キクバナイグチを切って、変色する様子を眺めたり、みんなで写真に撮ったり

写真右) こんな珍しいものも千葉大清水公德先生が見つけて下さいました。さすがです。
 黒いきのこはタンポタケモドキ。下の丸いのはツチダンゴというこちらもきのこの仲間です。
 タンポタケモドキはこのツチダンゴに寄生するきのこののです。おもしろいですよね！



かくしてきのこの数も量もかなり少なかったのですが、一通りの種類は見つかったので、森林と菌類の関わりについて、先生にわかりやすく丁寧に説明して頂くことが出来ました。

またここにはクロムヨウランがあるのですが、花はもう終わりの時期。
 かりうじて残っていた花をトン吉さんに教えてもらい、撮影。♪トン吉さん、ありがとう～♪
 今回はこの会の会員でもある学生さんが、クロムヨウランの研究結果を披露してくれました。

いろいろな新しい知見が得られていましたので、論文になるのが楽しみです。

キノコの説明中にブルーシートの上を飛び回っていたヤブヤンマのメス。
好奇心が強いのか、ヤンマの仲間は人を見に寄って来ることがありますね。

ハエのように追い払われていたのが可笑しかったです。

ちょっと留まってくれたので記念撮影(^_^) ヤンマは眼が美しいですねえ！

暑い日でしたが林の中は長袖でも大丈夫でした。

でも帰りの車の中の暑かったこと！森の大切さを、文字通り肌で感じた一日でした。

素晴らしい場所へ招いてくださった千年の森のみなさま、ありがとうございました！

(紙面の都合で記事・画像とも大幅に編集・削除しています。

ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/emi3merlin> をご覧ください)

きのご観察会に参加して

■千年の森きのご観察会に参加させていただきありがとうございました。以前から行ってみたいと思っていたので、それが叶い嬉しいです。8月19日10:20 キノコの観察会スタート、沢山のキノコを採集できると期待しておりましたが、残念ながら沢山見つけることはできませんでした。この夏は、猛暑が続き、何日もまとまった雨が降りません、そのせいでしょうか？豊英湖の水位も下がっていました。森の土も乾燥していました。吹春先生による採集してきたキノコの同定と解説、キノコについて興味を誘ってくれるので、ワクワクして楽しいです♪ミ・ルインさんのクロムヨウランについての報告、興味深く聞かせて頂きました。私は、クロムヨウランを初めて観ました。昼食の時、伊藤さんより「豊英島の自然」の冊子の説明があり、活動報告の内容を見て、私も仲間になりたく入会させて頂きました。10月20日のキノコの観察会楽しみに、是非参加したいと思っています。宜しく願います。(四街道市 細谷 重子)

■このたび、縁あって小平哲夫さんのご紹介により、参加させていただきました。私は、栃木県に住んでいますので、館山自動車道を通るたびに、海と急峻な地形と照葉樹の森林を不思議に思っていました。いつか、森林の中に入ってみたい。キノコ観察をしてみたいという希望をかなうことができました。また、ヤマビルがいないエリアとのこと、ほっとした次第です。栃木県では、生息範囲が拡大し、被害が急増し対応に苦慮しています。

(栃木県きのご同好会 関谷夕香)

■豊英島を大切に管理し、御会の活動の場として利用されているのはすばらしいことです。栃木県きのご同好会は、夏の観察会の場所選定で苦労します。大勢で入山し、自由にきのご採りをできる場所が少ないのです。今年の観察会は8月24日~25日に福島で行う予定です。キノコの放射能を心配して退会する会員もおり、栃木よりも放射能の薄い会津地方での初開催です。豊英島は少し遠いですが、機会がありましたら再び参加させていただければと思います。(栃木県きのご同好会 江連俊一)

■東京に住んでいる小4、中1の孫とジジババで参加させて頂きました。孫が喜んだのは勿論ですが、私自身とても勉強になりましたし楽しませて頂きました。今回のご縁が、将来、孫たちの自然への理解が深まる因となることでしょう。ありがとうございました。ヤブヤンマの写真添付いたします。(市原市 高橋睦弘)

■始めてキノコ観察会に参加しました。いろんなキノコを見つけて楽しかったです、そして勉強になりました。ありがとうございます。(千葉大大学院 王丹霓)

■過日は大変お世話になりました。途中離脱した。葛飾から、参加をした。荒木と申します。途中で人数がひとり不明になるといけないからと、報告をしたのですが、ご親切に駐車場まで送って戴き、仕事にも支障を来さずにすみしました。まずはお礼申し上げます。

千葉菌でも話題になっていた、なかなか、入る事の叶わない場所での、観察会は大変興味あるものです。また、単に観察だけでは無く、保全・育成などにも力を入れて居られるのが判り、有り難いと感じました。また是非、参加をしたいとおもいます。まだまだ、暑い日が続きますが、元気でご活躍ください。拙のつたないブログで、途中までの参加をUPしています。よろしければ、ご覧ください。
http://blogs.yahoo.co.jp/ryuusui_siun/37802026.html (東京都葛飾区 荒木唯史)

お知らせ

○新入会員紹介

8月19日石毛久雄(千葉市若葉区)、細谷重子(四街道市)、山本充弘(南房総市富浦町)の3人が入会されました。宜しくお願いします。今後のご活躍を期待します。8月19日現在会員数42名です。

○9月の定例活動日

9月16日月曜日(祝)、9時30分県民の森駐車場集合、シカ个体数調査、食害調査、植物調査、野鳥調査、マダケ林調査、クロムヨウラン調査、千年広場の新看板設置など計画されています。看板掛け替えは9年ぶりです。多くの会員の参加を期待します。

○“ちば里山カレッジ”受講生募集 応募締切りは8月末日 問合せ:ちば里山センターTEL 0438-62-8895

E-mail:info@chiba-satoyama.net 詳しくは [ちば里山カレッジ 受講生募集](#) [ちば里山カレッジ スケジュール](#)